

Ⅱ 愛知県立岡崎聾学校における 個々の子どもの教育的ニーズへの対応

1. はじめに

平成11年3月に公示された学習指導要領の趣旨や特別支援教育の在り方について（最終報告）を考え合わせたとき、今後は「個」を基本とした教育を行うことは当然であり、最も重要である。本校では、学びの主体は「個」であり、この伸長を図ることを基本としている。学習形態は効果的な学習を進める方策として、教科や活動の特性に応じて編成している。

ここでは、本校で実施している「個」にできる限り焦点を当てた教育課程等の取り組みについて紹介する。

2. 小学部の取り組み

新学習指導要領は完全学校週5日制の下で、各学校がゆとりの中で特色ある教育を展開し、児童に豊かな人間性や基礎・基本を身につけ、個性を生かし、自ら学び考える力などの「生きる力」を培うことを基本的なねらいとしている。

上記の内容をふまえ、習熟度別に学習する方法や学校生活にゆとりをもたせて、それぞれの「個」が豊かな人間性をはぐくむ教育を目指しているいろいろな工夫を行ってきた。

1) 習熟度別学習指導の展開

児童数の増加に伴い、それぞれの児童の障害の状況や学習能力の差が大きくなってきている。これまでの画一的な一斉授業では「個」のニーズに応じきれない状況が生じている。そこで、小学部では一人一人の障害の状況や学習能力の実態をふまえ、できるだけ「個」にあった指導ができるように習熟度別グループを組んで授業を行っている。現状では主に国語と算数で実施しているが、個別の指導支援計画の実施に伴い、その他の教科でも実施していくことを検討している。

2) 「個」のコミュニケーションニーズに応じた指導支援の検討

コミュニケーション手段に関する個別の要望が高まっている。本校ではコミュニケーションは自由で日本語を大切にするという方針で学習活動を展開しているが、手話の要望、人工内耳の児童では聴覚口

話法など要望は様々である。昨年度から学級裁量時間でコミュニケーションモード別学習を週1時間始めているが、今後は習熟度別学習指導形態とどのように連携させて、自立活動や教科学習等に取り入れていくのが課題である。

3) 個別の指導支援計画の作成と実施

画一的な教育から「個」を主体とした教育へ、これには個別の指導支援計画が不可欠である。反面、各教科ごとに細かく計画した場合は書類の量が膨大になり、教科ごとの連携も複雑化する。個別指導に対応した教材研究の時間までを視野に入れ、分かりやすく効率的な指導支援計画のシステム化が課題である。

4) 絶対評価及び個人内評価の定着

昨年度から絶対評価が導入されたが、これまでの相対評価が友達と比べていたのに対して、絶対評価は「個」の学習達成度を評価する点で「個」に焦点を当てて教育していく目的に合致している。各教科ごとに「岡崎評価規準表」を作成し、これを基に絶対評価による評価を始めている。しかし、数値化が困難な場面や主観的に評価をせざるを得ない場面では、各教員にまだまだ迷いがあるようである。また、本校では障害の状況を考慮し、個人内評価を加味した絶対評価という方法をとっているが、まだスタートしたばかりであり、評価規準を含めて、さらに検討を進めていかなければならない状況である。より一層分かりやすく具体的な評価規準と評価方法の作成・検討が今後の課題である。

5) 時間割の見直し

小学部の特色として3、4時間目を90分展開とし、その分2時間目の放課を20分間設けていることがあげられる（表1）。

児童にゆとりと遊ぶ時間を提供すること、総合的な学習の時間や図工などにおいて学習展開の自由度が広がることなどにメリットがある。習熟度別学習展開が増え、学級での授業が減りつつある中で「個」に焦点を当てながらも集団でも活躍ができる、人と人とのつながりを大切にできる、そんな子どもを育てたい。そのような願いからこのような取り組みを行っている。

3. 中学部の取り組み

中学部では13・14年度に「豊かな心をはぐくむ心の教育の在り方」をテーマに学習指導要領にある生きる力の要素としての豊かな人間性や社会性の育成

表1 小学部日課表

時刻	時限	月	火	水	木	金				
8:40～ 8:55		朝 会	おはようタイム			読書 読み聞かせ				
9:00～ 9:45	1	授 業								
9:55～10:40	2									
11:00～ 12:30	3 4									
12:30～13:25		給 食 ・ 休 憩								
13:25～14:10	5	授 業								
14:15～15:00	6						清掃 14:25	清掃 14:25	環境美化	ふれ合いタイム
15:00～15:15							帰りの会 14:30			帰りの会 14:30
15:15～15:20			帰りの会	帰りの会						
部活動 (月・水) ソフト・太鼓			14:35～ 15:20							

に取り組んだ。今年度は生きる力の知的側面としての確かな学力をはぐくむために、次のような取り組みを行っている。

1) 「個」に応じた指導としての習熟度別指導

3年は国・数・英・理・社の5教科を習熟度別グループで学習している。2年は5教科をチームティーチングで学習している。1年は国・数・英の3教科を習熟度別グループで学習している。生徒の実態に合わせいろいろな学習形態をとっている。また、意欲関心の高い生徒に教科書を応用・発展させた内容で学習する発展的学習を行っている。

2) 授業時数の工夫

1年の英語と2・3年の国語は標準時間数より1時間増の週4時間の指導を実施している。選択教科は2・3年一緒に学習し、学年の枠をはずして実施している。

3) 総合的な学習の時間の取り組み

総合的な学習の時間を金曜日の5・6時間目に連続して行っている。

4. 高等部の取り組み

1) 日課表及び教育課程

(1)日課表

個々の生徒の実態に即した日課表や教育課程の編成を行い、基礎学力の向上と職業人としての素養の育成を目指して、進学あるいは就職等の生徒の多様な進路希望に対応した教育を行っている。

表2は高等部普通科の平成15年度の日課表である。金曜日に7時間目を行っている。高等学校では週当たりの授業時数は30単位時間を標準としている。これに対して、聾学校高等部では自立活動の時間（本校の場合は週当たり1単位時間）を設定しているので、その時間のマイナス分を補い、高等学校同様の教科等の授業時間を確保した。

(2)教育課程

表3は、平成14年度の教育課程表である。本校は普通科しかない。

そこで、4年制大学、短期大学、専門学校等に進学を目指している生徒に対しては、普通類型を用意した。そして、その中をさらに3つのスモール類型、理数系・アート系・福祉文系に分けた。理数系は、主に、4年制大学の理系を目指す生徒が選択している。アート系は美術系の4年制大学や短期大学を目指す生徒のコースである。また、福祉文系は、4年制大学や短期大学の文系（福祉系を含む）を目指す生徒のコースであり、専門学校を目指す生徒も選択することが多い。

1年次で生徒の興味や学力の実態に合わせて選択教科（数学A・情報処理）を設けた。4年制大学を目指すには、やはり数学の力をつける必要がある。そこで、大学進学希望の生徒は数学Aを選択している。しかし、数学を週に6時間（数学I，4時間＋数学A，2時間）学習することが困難な生徒や情報系の専門学校を目指している生徒は情報処理の授業を選択している。

2年次では、保護者や生徒のニーズに合わせて類型分け（普通類型・情報技能類型・社会技能類型）を行った。情報技能類型は、主に、就職を目指す生徒のコースであり、各教科の基礎・基本の定着を重点目標にして取り組んでいる。また、学校設定科目として「産業実習」という科目を設け、作業的・体験的な学習を中心に授業を展開している。さらに、福祉的就労を目指す生徒のためには社会技能類型を用意した。

教育課程は、知的障害の養護学校のを参考にした。実際の運用については表4に示すとおりである。

平成14年度は、結果的には2年生11人に対して、5つの類型で展開することとなった。

2) 指導形態

指導形態についても、生徒の実態に合わせてさまざまな工夫をしている。例えば、社会技能類型の生徒の中には、各教科において、小学部や中学部での学習内容が十分理解できていないケースもあるので、個別指導を行い、個々の生徒のペースで基本的な学習ができるように配慮している。また、普通類型の生徒は、各教科の理解度に応じてグループ分けを行い、習熟度別指導を行っている。さらに、体育のように大きな集団が必要な教科では、部全体で学習できるような形態をとっている。さらに週3時間のうちの1時間だけは学年で学習するなど教育的ニーズに応じてより効果的な形態での指導を行っている。特に、配慮している点としては、生徒の発達段階や特性、そして、何より生徒一人一人の進路希望である。

表2 高等部日課表

時刻		曜日					
		月	火	水	木	金	
8:35 ~ 8:50		朝の読書/S・T					
8:50 ~ 9:40	1	授 業					
9:50 ~ 10:40	2						
10:50 ~ 11:40	3						
11:50 ~ 12:40	4						
12:40 ~ 13:20		給食・休憩					
13:20 ~ 14:10	5	授 業			5	13:20 ~ 14:10	
14:20 ~ 15:10	6				6	14:15 ~ 15:00	
15:10 ~ 15:20		清 掃				7	15:05 ~ 15:50
15:20 ~ 15:25		帰りの会				清掃	15:50 ~ 16:00
部活動						S・T	16:00 ~ 16:05
		16:00 ~ 17:00 (冬) 16:00 ~ 17:30 (夏) ※ 金曜日はこの限りではありません					

表3 平成14年度高等部教育課程表

科目数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1年次	国語 I			日本史 A	数学 I			数学A 情報処理	化学 I A	体育		保健	美術 I 書道 I	英語 I			生活一般	HR	自立活動	総合的な学習の時間		類型									
2年次	国語 II		体育		保健	生活一般	国語表現	世界史 B	数学 I	情報管理	OCA	生物 I A	英語 II		HR	自立活動	総合的な学習の時間	福祉文系													
							古典 I -OCA	世界史 B	数学 II		美術 II	ビジュアル	英語 II	アート系																	
							世界史 A	物理 I B	数学 B		英語 II		理数系																		
							数学 A	生物 I A	情報処理	情報管理	産業実習	数学 I	英語 II	情報技能																	
3年次	現代語		体育		保健	国語表現	現代社会	世界史 B	情報処理	英語 II	数学 I	ライティング		HR	自立活動	総合的な学習の時間	文系情報														
						国語表現	数学 III		数学 C	化学 I B	物理 II	ライティング	生活一般				理数系														
						ビジュアル	数学 A	現代社会	英語 II	情報管理		ライティング	情報系																		
						国語表現	数学 I	情報処理	産業実習	ライティング		情報技能																			
12年	生活単元学習・作業学習						国語	社会	数学	理科	保健体育	美術	家庭	外国語	特別活動	自立活動	総合	社会技能													

表4 社会技能類型の教育課程（指導形態別授業時数）

教科・領域	学年		
	1	2	3
各教科	国語	140 (4)	
	社会	70 (2)	
	数学	70 (2)	
	理科	70 (2)	
	保健体育	140 (4)	
	音楽	70 (2)	
	美術	70 (2)	
	職業	140 (4)	
	家庭	70 (2)	
外国語	70 (2)		
道徳	35 (1)		
特別活動	35 (1)		
自立活動	70 (2)		
総合的な学習の時間	35 (1)		
合計	1085 (31)		

教科・領域	学年		
	1	2	3
合領域・教科を 合わせた指導	生活単元学習	140 (4)	(6)
	作業学習	140 (6)	(6)
教科別指導	国語	105 (2)	(2)
	社会	70 (2)	(2)
	数学	70 (2)	(2)
	理科	70 (2)	(2)
	保健体育	140 (4)	(2)
	美術	70 (2)	(2)
	家庭	70 (2)	(2)
	外国語(英)	70 (2)	(2)
指領域 導別	特別活動	35 (1)	(1)
	自立活動	70 (2)	(1)
総合的な学習の時間	35 (1)	(1)	
合計	1085 (31)		

5. おわりに

これまで述べてきたように、本校では各部において、学びの主体は「個」であるという共通認識に立ち、教育課程を考えている。これまでの、「集団が先にある」とか、「枠が先にある」という発想ではなく、あくまでも「個」に焦点を当て、結果としてグループになるということはあるにしても、全てを「個」から組み立てようと考えている。このような発想の転換によって、それぞれの部で様々な問題があることも事実である。しかし、本校では、あくまで幼児児童生徒のニーズを教育の中心に置き、様々な問題に対しても、教員の意欲と叡智そしてチームワークで前向きに改善を図り、より一層幼児児童生徒や保護者の期待に応えられる教育課程編成そして学校創りをしようと考えている。

(愛知県立岡崎聾学校・鹿嶋 浩)